

3. 庄内南小学校PTAへの「魅力ある学校づくり構想」の説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 28 年（2016 年）2 月 25 日（木）15 時 45 分～

○場 所：庄内南小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
この構想は、教育委員会内ではすでに決まっている話ではないか。情報を小出しにして、ただ説明会を開催しても、本当に子どもたちによって良い「魅力ある学校」づくりはできないのではないか。	本日の説明内容について、情報を小出しにしているということは一切なく、現時点での検討を全てお示しています。これまで各校長とは意見交換してきましたが、現場の教職員の意見を集約したという経緯がないので、今日初めて知った方もいるかもしれません。現時点での検討は、計画ではなく、あくまで構想の段階です。まだまだ議論や検討が不足していますが、大筋の方向性については一定の理解をいただきたいと考えています。今後、構想案を固めていく過程で修正等が必要な部分もあるので、敷地の場所やスケジュール等を含め、教職員からのご意見をいただきたいと考えています。繰り返しますが、この構想は、裏で着々と進めてきたことでも、既に決まっていることでもありません。
児童生徒数が増えるに伴って、教職員数が増えても、一人の教員がークラスをみることに変わらないので、子ども一人ひといを見る目が足りなくなるのではないか。小規模校の良さもあると感じている。	小規模校の良さについては、2 月 20 日の説明会でもご意見をいただきました。教育委員会としては、小規模校の良さを否定しているわけではありません。良い面もありますが、子どもたちにとって、現状をそのまま維持していくことが、本当に良いのかということを考えた時に、どこかのタイミングで改革しなければならないと考えています。今、（仮称）南部コラボセンター構想の動きがある中で、地域全体を教育やまちづくり等の観点から、改革していきたいという思いを持っています。この時期が最善なのか分かりませんが、このタイミングを逃すと次のチャンスは当分ないと考えています。
ハード面の話ばかりだが、実際に色々な学校が一緒になった時に、子どもたちにどのような教育をしていくのか、指導方針はどうするのか等、ソフト面の構想も同時に検討していく必要があるのではないか。	先ほども申しましたが、本日ご説明した内容が、現時点における検討の全てです。小中一貫教育は、9 年間を見とおした教育課程の編成など、これから教職員の力を借りながら作り上げていく必要があると考えています。これまで各校区では小中連携や、小中一貫教育に向けた取り組みをされていますが、そのような取り組みを全てリセットするというのではなく、今までの取り組みを、さらに発展させていきたいと考えています。
なぜ南部地域だけに小中一貫教育の必要性があるのか。北部でも同じように必要なのではないか。	小中一貫教育の必要性は、南部地域に関わらず北部地域においても高まっています。ただし、南部と北部では地域性が異なるので、その地域に合った小中一貫教育を導入する必要があります。南部地域では生活課題や学習課題を抱える子どもたちが多く、小中一貫教育だけで課題を解消できるものではありません。小中一貫教育と合わせて、生活・学習支援、地域資源の活用などを盛り込みながら、総合的に推し進めていく必要があります。北部地域でも条件が揃えば、小中一貫校を開校できるかもしれませんが、地域ごとに事情や

	条件が異なるため、タイミング等を見ることとなります。庄内地域において小中一貫校をつくることは、実験的な試みではありません。先進事例の視察等も踏まえながら、庄内地域に合った形で小中一貫教育、例えば、学力面だけではなく、キャリア教育の中で9年間を見とおすことや、庄内地域の歴史をしっかりと学んでいくこと等を推進していきます。
大阪都構想が実現されたら、この構想はどうなるのか。	市長の判断によるので、一職員からの回答は控えさせていただきます。
工事期間中の子どもたちの教育はどうなるのか。例えば、工事期間中に受験する場合に、学校が変わることによって、勉強に遅れが出るのではないか。	工事期間は2年ほどかかると考えており、工事期間中に、受験の時期を迎えるという場合も想定されます。その場合、これまでの学校よりも、劣悪な教育環境になることは避けなければならないと考えています。移動する前の学校と同レベルの教育環境や教育内容は維持していきたいと考えています。
通学距離が遠くなるのではないか。特に低学年の子どもたちが遠くまで通うことについて不安である。	住まいの場所によって異なりますが、今回の学校再編により、通学距離が延びる場合があります。通学距離を短くすることは難しいですが、通学時の安全確保については、しっかりと対応していきたいと考えています。あくまで、地図上での想定になりますが、通学距離は、遠いところでも、おおよそ2km圏内に収まると考えています。
高学年であれば2kmでも通えると思うが、低学年ではしんどいのではないか。低学年が通学するとどれくらい時間がかかるのか。	地図上の計測による所要時間は、大人が歩くことを前提としていますが、大人が歩くよりも、低学年の子どもたちのほうが当然、時間がかかります。スクールバスを導入してほしいというご意見もいただいておりますが、今のところ、スクールバスの運行についての検討は行っておりません。
スクールバスの予算はあるのか。	スクールバスについては、これからの検討になるので、予算はとれていない状況です。この構想は、スクールバスの導入を前提にして考えた案ではないので、これから皆さんのご意見も参考にしながら、検討していくことになります。
一クラスの児童数が増えるのに伴って、教職員数も増えるのか。	教職員数は、学級数に応じて、決まります。また、市独自に教職員を配置することも考えられます。加えて、学校統廃合に伴って、教職員が加配される制度の利用も考えられます。具体的な話についてはこれからの検討になります。
大阪市では土曜日に授業があるが、豊中市では実施されないのか。その場合、高校受験に対して、対応できるのか。	現時点において、豊中市では検討されていませんが、夏休み期間を短くし、2学期の開始日を早めるという取り組みは行っています。この件に関しては、担当者が同席しておらず、詳しいことについては分かりかねます。いただいたご意見は要望として頂戴します。

子どものためになる学校編成は良いことだと思うが、学校だけでなく、例えば、庄内温水プールも休館中のままであり、既存の古い施設についても活用できるようにしてほしい。	庄内温水プールについては、現在、豊中市の担当部局がどのように活用していくのか検討中です。市有施設有効活用については、公共施設を複合化して、ワンストップサービスを提供したいというねらいがあります。また、日本全体で人口減少が進む中、豊中市においても既存の公共施設をこのまま維持していくのは現実的でないと考えております。今日いただいたご意見は担当部局に伝えます。
構想案1と2があるが、これから意見を集約する中で、他の案、構想案3が出てくることはあるのか。	これまでさまざまな検討を重ねて、現在の構想案にたどり着いているという経緯がありますが、市民の皆さんと意見交換する中で、より素晴らしい案が出れば、当然、構想案3（新しい案）として検討することになります。検討に際しては、通学距離や、一定の教育活動ができるための敷地面積などが条件になってきます。良い案などがあれば、ぜひご提案ください。
構想の段階だが、学校の制服はどうなるのか。	他市事例では、保護者や地域の方の参画も得て「準備委員会」を設置し、新しい学校名、制服、校歌、校章等を検討するという取り組みがみられます。先日、視察に行った宇治黄檗学園では、小学校は私服で、中学校からは制服の指定がありました。また、上履きは、一般的には、小学校はバレーシューズで、中学校は、踵を踏む子が多くなるということで、スリッパに変わるところが多いですが、宇治黄檗学園では、中学校においてもバレーシューズを履いていました。学校によって、あり方は様々であり、皆さんと一緒に新しい学校をつくっていくということであれば、「準備委員会」のような組織を立ち上げて、皆さんと一緒に検討していくべきだと考えています。
さまざまな制約や課題があると思うが、子どもたちのために良い方向になれば良い。よろしく願いたい。	ご意見、ありがとうございます。